

平成 27 年度ナショナルバイオリソースプロジェクト 成果報告書 (公開)

補助事業	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
代表機関管理者 (所属機関・氏名)	国立遺伝学研究所 系統生物研究センター 准教授 山崎 由紀子
補助事業課題名	情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進

1. 補助事業の目的 (担当機関)

① リソースデータベースの整備 (国立遺伝学研究所：代表機関)

NBRP リソース機関によって整備されたリソースおよび関連情報の情報発信を支援し、リソースの有効利用を促進する。

② 大型類人猿情報ネットワーク (GAIN) の展開 (京都大学霊長類研究所：分担機関)

飼育施設-研究者のネットワークを通して大型類人猿の個体情報 DB を拡充し、個体群管理の提言や国際的情報発信を目指す。

③ 地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) の日本ノード (JBIF) の活動 (国立科学博物館：分担機関、東大大学院分化研究科：分担機関、国立遺伝学研究所：代表機関)

国内の生物多様性情報を GBIF の枠組みにおいて集成・公開する。

④ ABS 学術対策チーム (国立遺伝学研究所：代表機関)

名古屋議定書に対応した遺伝資源の国内学術研究機関に向けた啓発活動を行うとともに、コンプライアンス体制の構築を通して学術研究の促進を図る。

2. 補助事業の概要

① リソースデータベースの整備

- 1) 既存 DB を安定運用し、必要に応じてシステムの構築を支援する。
- 2) データを恒常的に更新し、DB の改良改善拡充を進め、利用を促進する。
- 3) 学会、ニュースレターなどを通して活動を広報する。

② 大型類人猿情報ネットワークの展開

- 1) 個体情報 DB のコンテンツをリアルタイムで更新し、ゲノム・行動・形態情報などの付随情報を充実させる。
- 2) DB を日英完全対応とし国際化を推進する。

③ 地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動

- 1) GBIF 日本ノード (JBIF) のポータルサイトを安定に運用する。(遺伝研)
- 2) 国内の標本・観測データを収集し GBIF に登録する。(科博、東大、遺伝研)
- 3) 生物多様性情報の国内利用を促進する。(科博、東大、遺伝研)
- 4) 国際標準化に対応し、種名チェックリスト、種情報システムなどを構築する。(東大)

④ ABS 学術対策チーム

- 1) ABS に関する相談窓口を設置し、個別相談に応じる。
- 2) ABS に関する国際情報を広く収集し、国内の関係者に発信する。
- 3) セミナーや講習会の開催を行い、ABS への理解を深めると共に、専門家を育成する。

3. 補助事業の成果（平成 27 年度）

① リソースデータベースの整備 www.nbpr.jp

- ・老朽化した機器を更新して公開サーバを安定運用し情報発信を継続した。
- ・リソース機関およびサブプログラムの課題担当者と連携し、公開情報のタイムリーな更新と個別 DB*について必要な改良改善を実施した（*メダカ、ニワトリ・ウズラ、ミヤコグサ・ダイズ、イネ、病原微生物 DB、大腸菌、枯草菌）。
- ・Web サイトの年間ユニーク利用者数（IP 数）49 万人。NBRP リソースを使った研究論文累積数 26000 報。
- ・分子生物学会・生化学会の合同大会（パネル展示）、PAG XXIV（ブース展示、ポスター発表）、月刊オンラインニュースレター発行（No. 1-No. 12）を通して広報に努めた。

② 大型類人猿情報ネットワークの展開 shigen.nig.ac.jp/gain

- ・関連施設との連携を強化し、国内で飼育されている類人猿（チンパンジー、ボノボ、ゴリラ、オランウータン、テナガザル）1931 個体の最新情報を公開した。GAIN の月間利用者数（IP 数）は 3000 人。
- ・個体群動態を把握するため、現存する個体だけでなくかつて国内で飼育されたことのある個体の情報追加も進めた。
- ・情報の日英発信の他、国際血統登録番号との照合や英語表記の統一など国際化を進めた。

③ 地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動 www.gbif.jp

- ・GBIF 日本ノード（JBIF）のポータルサイト、S-net（science-net.kahaku.go.jp）、分類人材 DB、自然地名辞書サイト（info.hitohaku.jp/loc/top.html）などの公開システムを安定に運用した。JBIF の月間利用者数（IP 数）は 3000 人。
- ・国内の標本・観測データを収集し標準形式へ変換後、データ累計 450 万件を GBIF に登録した。国内の自然史標本コレクションの所在情報を更新。日本バーコードオブライフサイト（www.jboli.org）を更新した。
- ・活動の広報と公開情報の利用促進のため、ワークショップ、研究集会、説明会などを行った（全国科学博物館協議会、北海道自然史研究会、標本情報の発信に関する研究会）ほか、JBIF パンフレットを更新し、GBIF の英文文書の一部を和訳して公開した。
- ・理事国会議に出席し生物多様性情報の国際標準について議論した。

④ ABS 学術対策チーム nig-chizai.sakura.ne.jp/abs_tft/

- ・国内窓口相談 150 件に対応した。
- ・海外調査実施（インドネシア、カナダ、ドイツ）、国際会議への参加（カナダ AHTEG、イギリス DG-SANTE ワークショップ）、ワークショップの開催（海洋遺伝資源ワークショップ、インドネシアワークショップ）、学会等でのポスター展示（RA 協議会、分子生物学会）、出張セミナーの開催 35 カ所 45 回、メーリングリスト運営（登録者 900 名、毎週配信）。
- ・専門家育成用 ABS 講習会 を 10 回開催し（1 回 2 日間）、ガイダンス本を作成配布した。